

# 1 明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム

## 1.1 総括

「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」は、本学で活発に行われているボランティア実践と、大学の学びを融合する全学的な取り組みとして2016年度から始まった。

このプログラムは、①135時間以上のボランティア実践、②各学部学科と、共通科目を担当する教養教育センターが指定した科目のうち16単位の修得、③ボランティア実践と、大学での学びを結びつけるための手がかりをつくる「インテグレーション講座（3回 ※2018年度から4回）」を受講した学生に、サティフィケート（修了証）を授与するものである。

本年度は2年目となり、92名の新入生がプログラムに登録するとともに、昨年登録した2年生が第2回インテグレーション講座に臨んだ。大学でのボランティア活動を始めたばかりの1年生を対象とする第1回インテグレーション講座は、実践を通じて学ぶことに留意し、ボランティアセンターが実施している（6月、7月、8月に全4回実施）。これに対して、2年次の秋学期の学生を主たる対象とする第2回インテグレーション講座は、各学部の運営委員の教員の協力を受けながら、それぞれがこれまで行ってきたボランティア活動の経験を、専門の学びと結びつけるためのものである。本年度は、その前編として「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」に参加し、ボランティア活動を通じて大学の学びを深めてきた3・4年次生のプレゼンテーションを聞いた後、各学部に分かれてディスカッションを行った（11月11日）。その後、各学部の運営委員の指導によって、後編が実施されている。当初より、本プログラムは全学的な取り組みとしてはじまったものだが、各学部の運営委員の協力を得ることによって、本格的な展開が始まったといえる。

本年度特筆すべき点は、プログラムを担当する非常勤コーディネーターを任用した点である。週2回の勤務であるが、学生から提出される実践の記録に対して実践からの学びを深めるためのフィードバックコメントをするとともに、昼休みを利用したショート講座の実施や、「サティフィケートプログラムだより」の発行などが行われるようになり、プログラム登録学生が気軽に相談できるような体制が整えられつつある。来年度は、登録学生のプログラムの継続の状況やボランティア実践の状況を踏まえながら、ボラセンとして効果的な実践指導を探っていく。

2018年度は3年目で、いよいよ完成年度を迎える。第3回インテグレーション講座を受講する3年生が、自身のボランティア活動と学びを融合させて、一人ひとりの「Do for Others」を言語化させられるように、教学に携わる各学部・教養教育センターの教員と連携してサポートしていくとともに、プログラム自体がより意味を深められるような検証と改善を適宜行っていく。

（ボランティアセンター長補佐 猪瀬浩平）

## 1.2 2017年度スケジュール

日にち	内容
4月	新入生向け学科別ガイダンスにて「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」について告知（別日程で説明会も実施した）
5月17日（水）	第1回インテグレーション講座の告知・エントリー受付開始
① 6月27日（火） ② 6月28日（水） ③ 7月8日（土） ④ 8月1日（火）	第1回インテグレーション講座 対象：主に2017年度生 【テーマ】「ボランティア実践から学ぶとは」 【内 容】「大学での学び」と「ボランティア実践からの学び」の違いについて理解を深めた。 【講 師】猪瀬浩平（ボランティアセンター長補佐 教養教育センター准教授） 中原美香（ボランティアコーディネーター）
11月11日（土）	第2回インテグレーション講座（前編） 対象：2016年度生 【テーマ】「ボランティア実践と大学での学びを結びつける」 【内 容】「ボランティア実践」と「大学での学び」を結びつけるとはどういうことか、先輩学生の発表や、教職員からのレクチャーとディスカッションを通して理解を深めた。 【講 師】各学部の運営委員の先生方、先輩学生
11月28日（火） 12月18日（月）	ショート講座Ⅰ 対象：全学生 「障がいのある方や子どもとの接し方を考えよう」 ショート講座Ⅱ 対象：全学生 「発達障がいのある子どもとの接し方を考えよう」
学部ごとの日程	第2回インテグレーション講座（後編） 対象：2016年度生
各月初め （秋学期より）	「サティフィケートプログラムだより」発行

## 1.3 2017年度プログラム登録者数

	学部						合計
	文	経済	社会	法	国際	心理	
2016年度生 （第2回インテグレーション講座を受講した者）	1	1	13	3	7	2	27
2017年度生	17	13	12	7	29	14	92
合計	18	14	25	10	36	16	119

## 1.4 取り組みのようす

### ① 第1回インテグレーション講座

第1回インテグレーション講座は、通常は3年間かけて取り組む「サティフィケート・プログラム」

のスタート地点である。主に1年生を対象としている。多くの学生が参加できるように、曜日や日程を変えて同じ内容の講座を4回にわたって実施した。「サティフィケート・プログラム」の趣旨や取り組み方法を知ったうえで、「大学での学び」「ボランティア実践からの学び」という本プログラムの二つの大きな柱について理解を深める内容であった。

この講座を通して、2017年度は92名の1年生が本プログラムに登録した。

## ② 第2回インテグレーション講座（前編）

第2回インテグレーション講座は、本プログラムに約1年半の期間取り組んできた主に2年生が参加する講座である。

インテグレーション講座の実施前に、前年度に本プログラムに登録した学生に対して、出席するかどうかを確認した。登録学生はボランティア実践の進み具合などに応じて、各自で判断して27名がインテグレーション講座への出席を希望した。

当日は、大きく前半の全体会と後半の学部分科会とで成り立っている。

前半は全員で「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」を聴講して、先輩学生の発表から学びとボランティアをつないで双方の成果をさらに深める具体的な事例を知った。

後半の学科ごとの分科会では、各学科の運営委員の先生がファシリテーターとなり、参加学生が「これまで取り組んできたボランティア実践」「ボランティア実践とつなげて、今後大学で学びたいこと」を共有し、交流した。学科の先生からは学びとボランティア実践をつなぐためのさまざまな研究手法や参考となる文献などが紹介された。

参加学生は後日「第2回インテグレーション講座ワークシート」を提出した。提出のあったワークシートにはボランティアコーディネーターがフィードバックを記入して返却した。

なお、この講座は1回限りの開催であったことから、授業等の都合で参加できない登録学生もいた。授業等のやむを得ない事情であると判断した場合は、当日の講座のようすを記録ビデオで視聴して、「ワークシート」を提出することで参加とみなすこととした。



第2回インテグレーション講座（前編）  
学科ごとの分科会

### 第2回インテグレーション講座ワークシートより

Aさん「政治学科で学んでいることから発展途上国の問題を解決するために日本は何ができるのかを考えたい。政治・行政的な観点から考えることで一時的な解決でなく根本的に解決する方法を探りながら、国際問題に関わるボランティアに取り組んでいきたい。」

Bさん「外国籍の子どもや障がいのある子どもの支援に関わっています。ここからつながられる授業としてジェンダー・マイノリティー・異文化などをキーワードとして考えています。」

#### コーディネーターコメント

Aさんのように学びから見つけた課題をボランティアにつなげる方法や、Bさんのようにボランティア実践での体験をもとに学びたいことにつなげる方法など、それぞれに合ったさまざまな形で学びとボランティア体験をつなぐことができますね。自分に合った方法を探ってください。

### ③ 第2回インテグレーション講座（後編）

第2回インテグレーション講座（前編）を受けて、学科ごとに日程を設定して（後編）が行われた。再び各学科運営委員の先生方や学科主任の先生方が指導してくださり、具体的に「ボランティア実践と大学での学びをどのように結びつけるか」について理解を深めた。各登録学生が深めようとしている内容が徐々にはっきりしてくるなかで、ここではボランティア実践と結びつくことができるであろう学びの授業科目名なども挙げて今後の取り組みへの見通しをもった。

講座終了後に「第2回インテグレーション講座後編レポート」を提出した。提出のあったレポートにはボランティアコーディネーターがフィードバックを記入して返却した。

#### 第2回インテグレーション講座後編レポートより

Cさん「被災地復興支援をボランティア実践の大きな枠として考えているが、そのなかでも子どもとの関わりにおいては、教職課程で子ども期の発達の特長や指導法、関わり方を具体的に学ぶことで、子どもたちと楽しく関わりながら、心の声を引き出せるようになりたい。」

#### コーディネーターコメント

第2回インテグレーション講座前編・後編を通して、大きな枠のままで考えていたものが「この部分はこの学びとつなげたい」というつながりの矢印が少しずつはっきり見えるようになってきましたね。これからは矢印がどんどん太くなるような取り組みができるとよいですね。

### ④ ショート講座Ⅰ・Ⅱ

サティフィケート・プログラムやボランティア実践に取り組むなかでの疑問の解決や問題点の解消に役立つように、昼休みに気軽に参加できる「ショート講座」を横浜キャンパスでお昼休みに実施した。どちらも、本プログラム登録学生以外の学生も参加した。

#### ショート講座Ⅱで参加者から共有された支援の事例

- ・言葉のやり取りが苦手な中学生への支援→ビンゴカードのマス目にどんな言葉を書きたいか見本を示して選べるようにして、一緒に書く作業に取り組んだ。
- ・水泳指導で耳をふさいでうずくまるなどの行動がある小学生への支援→ジェスチャーを使って伝えようと試みた。

#### コーディネーターコメント

それぞれに相手の苦手な関わり方でなく、受け入れやすいような関わりを試みているところがよいですね。その支援が有効かどうかを評価しながら、よりよい支援方法を探りながら支援する相手と一緒に一歩ずつ歩いていきましょう。



ショート講座

### ⑤ 「サティフィケートプログラムだより」発行

本プログラムの登録学生や、ボランティア実践に取り組む学生が気軽にボランティアセンターに足を運んだり、ボランティアに親しみをもったりすることができるような情報を提供するための通信を10月から毎月月初めに発行した。

本プログラム登録学生のテーマの紹介や、読み物としてボランティアコーディネーターのボランティ

ア体験などを掲載した。

あわせて横浜ボランティアセンターコーディネーターの勤務日も紹介して、登録学生がボランティアセンターを利用しやすい情報を提供した。

コーディネーターより

サティフィケート・プログラムが始まって来年度はいよいよ3年目となり、2016年度生はプログラムのまとめの年になります。みんなでゴールを目指して進んでいきましょう。



## 1.5 学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会

「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」の関連企画として、3、4年生をエントリー対象として開催した。自身が取り組んだボランティア実践と、学部・学科の授業における学びを関連付け、双方の深まりを図った事例の発表の場を提供し、優れた発表に対して学長賞等を授与するものである。

一次審査(エントリーシート)を通過した学生が、2017年11月11日に発表を行った。この発表を2016年度登録学生が「第2回インテグレーション講座(前編)」の先輩学生の発表として聴講した。

「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」では、厳正なる選考の結果、下記の学生の入賞が決定した。

【テーマ】“Do for Others”の実現のために 「大学での学び」と「ボランティア実践」との連携

学長賞	1名
国際学部国際学科4年	大竹菜緒
ボランティアセンター運営委員長賞	2名
社会学部社会学科4年	佐藤大樹
社会学部社会福祉学科3年	五十嵐有沙
ボランティアセンター長賞	1名
経済学部経営学科4年	野村奈央
奨励賞	2名
社会学部社会福祉学科3年	飯田大誠
社会学部社会福祉学科3年	松下梨那

(学科別 50 音順)

学長賞の大竹さんの学びの軌跡はボランティアセンターウェブサイトで紹介しています。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/volunteer/certificate/news/2017/2017-12-23.html>

(ボランティアコーディネーター 田口めぐみ)